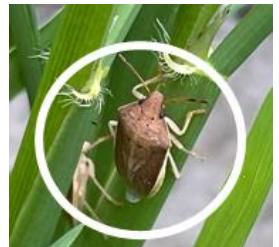


“イネカメムシ” 防除のポイント

近年、管内各地のほ場でイネカメムシが多く発生しており、水稻への被害も確認されています。イネカメムシは、出穂直後の穂を加害し、大幅な減収及び品質低下につながりますので、下記のとおり防除を徹底しましょう。

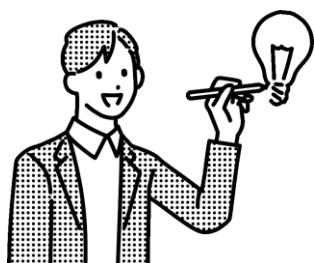
《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は12~13mm、幅5~6mmで体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稻に飛来し、水稻穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔粒が発生 → 収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生 → 品質が低下



稻の株元に潜む
イネカメムシ

《防除について》



防除適期について、昨年までは“出穂期”と“出穂期の7日後”的2回を防除適期としていましたが、最新の県病害虫部の試験結果では、“出穂期”と“出穂期の14日後”的2回がより効果的であることがわかっています。

下表のいずれかの剤を使用して防除してください。キラップ剤はイネカメムシに対する感受性低下が認められる事例があるため、使用は避けてください。

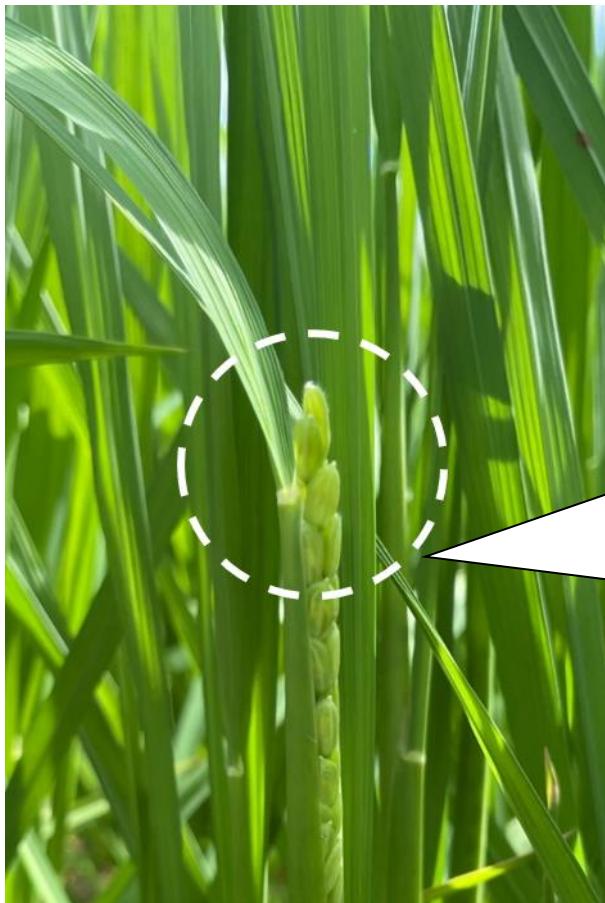
防除適期	農薬名	使用量・希釀倍数	使用時期	使用回数
「出穂期」と「出穂期の14日後」の2回防除	エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
	エクシードフロアブル	2,000倍		
	スタークル豆つぶ	250g/10a		3回以内
	スタークル粒剤	3kg/10a		

※粒剤は上記の防除適期よりも1週間程度早めに散布しましょう。

※殺虫剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稻の開花期の散布は避けてください。

裏面に品種別の出穂期の目安を掲載していますので防除タイミングの参考にしてください。

≪出穂期の見方≫



出穂期とはどのような状態を指していますか？



止め葉の付け根から穂先が出現した状態を“出穂”といい、ほ場全体の4～5割がこの状態になった時期を「出穂期」といいます。



≪品種別の出穂期の目安≫

田植え日	出穂期の目安		
	夢つくし	元気つくし	ヒノヒカリ
5月 5日頃	7月 13日頃		
5月 15日頃	7月 22日頃		
5月 20日頃	7月 26日頃		
5月 25日頃	7月 29日頃		
5月 30日頃	7月 31日頃		
6月 5日頃	8月 4日頃		
6月 10日頃	8月 7日頃	8月 15日頃	8月 23日頃
6月 15日頃		8月 18日頃	8月 25日頃
6月 20日頃		8月 20日頃	8月 26日頃
6月 25日頃		8月 21日頃	8月 26日頃

気温によって出穂期は前後するため、各自でほ場の状態を確認し、防除を実施してください。